

これら①～⑨まですべて〔例〕における  $PR \parallel QS$  の性質が保存されている。また、それぞれの問題を証明するにあたって用いる定理は、

- ア) 円周角の定理
- イ) 接弦定理
- ウ) 内接四角形の性質

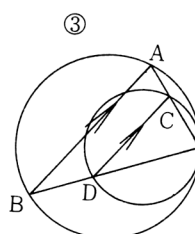
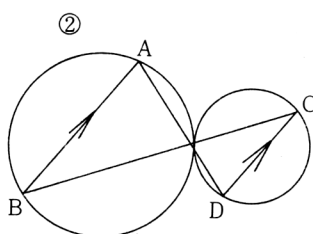
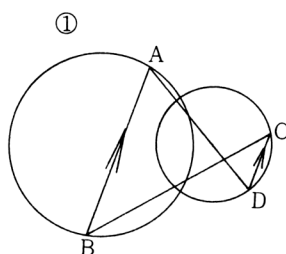
とすると、

- ①—イ)とウ)
- ②—ア)とウ)
- ③—ア)とイ)
- ④—ア)
- ⑥—ア)
- ⑦—ア)とイ)
- ⑧—ア)とウ)
- ⑨—イ)とウ)

となる。

また、〔例〕において、2円の位置を変化させてみるとやはり  $PR \parallel SQ$  が保存されていること

がわかる。



- 教室の窓  
(東京書籍)
- 数学部報  
(No.6 福島県中教研数学部会)

<参考文献>

◎一部を執筆分坦した次の文献を主に参考にした。

- 中学数学「構造」の指導  
(佐藤俊太郎著 明治図書)
- 数学指導プログラム  
(岸 俊彦編 学習研究社)
- 数学教育  
(No.166, 167, 179~189 明治図書)

◎次の文献から一部を引用させていただいた。

- 現場での授業研究のあり方  
(古藤泰弘著 教育開発研究所)
- トポロジー入門  
(都筑卓司著 日科技連)
- 研修のすすめ方  
(福島県教育庁義務教課)